

第2回京都府犯罪のない安心・安全なまちづくり計画検討委員会 (防犯まちづくり部会・開催結果概要)

(※ 項目別の主な意見要旨)

1 日時・場所

令和5年8月1日(火) 午後2時～5時00分/京都府公館第5会議室

2 出席者

(1) 委員

柴田委員、谷口委員、藤岡委員、溝川委員、三井委員、山本委員

(2) 京都府

京都府文化生活部長、安心・安全まちづくり推進課長 他関係課

3 議事の概要等

「京都府犯罪のない安心・安全なまちづくり計画」に関する意見交換について

① 防犯ボランティアについて

- 防犯推進員の主催する集まりについて、集め方や内容がマンネリ化していないか見直す必要があるのではないかと。
- ロックモンキーズのような大学生だけでなく、そこに高校生も含めて、若手の活動を重点的に支援してはどうか。単に大人の都合で動くのではなくて、もっと生き生きと動けるように、あまり大人は口出しせず、場所と予算について支援し、繋がりも作っていくのがよい。
- 子ども見守りボランティアは宝であり、この子供見守りボランティアについて、もう一度、その意味や価値を地域で考え直す必要がある。
- 防犯推進委員は、ボランティア活動に大きく関わっているが、コロナ禍で活動があまりできていないという課題がある。経験をお持ちの高齢者の方が、若手にトレーニングをしていただけるような環境をつくれたらと思う。
- 企業のCSR活動について、警備会社であれば防犯ボランティア活動を行いやすいと思うが、飲食や旅行会社だと、関係性がわからず、ハードルが高くなるので、その辺りを上手く広報することが重要である。各所にある商工会議所などを使って、宣伝してもらうのも一つの手段だと考える。

② 担い手の確保について

- 与謝野町のような小さな自治体では、町が防犯推進協議会の事務局を持っていて、メンバーは充て職になっている。自治会の区長、PTA役員、民生委員などといった方々が防犯推進協議会を維持しているが、もう本部役員の担い手がいない。まず今ある組織をどう維持していくかが重要であり、連携の部分でいうと、町の協議会である防犯推進協議会が、交番ごとにある防犯ステーションとしっかりと連携できているかは、検証しないとイケない。

- 「楽しさ」は大事なキーワードだと思う。ボランティア活動に楽しみがどれだけあるかが重要。京都府でもスポ GOMI という取組があるが、ごみ拾いをスポーツ感覚にというもので、これは一つの良いヒントである。防犯推進のために集まり、そこに参加することが大きな目的であるが、例えばスポーツ感覚など、何か新しいボランティア参加の形みたいなものを作っていけたら面白いし、一つのモデルになると思う。
- ロックモンキーズの活動は京都市内中心であるが、高校はどのエリアにもあるので、高校生によるボランティア活動は期待できる。
- 防犯推進委員の活動は、やっぱり楽しくなければ、なかなか広がっていかないし、続かない面もあるので、その辺りをひと工夫できたらと考えているが、とにかくボランティアを増やす、若返らせるというところにポイントをおきたい。
- ロックモンキーズが YouTube でメンバー募集していても、いかんせん見てもらえていない。もっと世間に知らしめる、何かもう少し裾野を広げることが必要であり、防犯推進委員においても、町内会からお願いするのも一つの手段だと思う。市民新聞などの媒体も使ってリクルートしていけたらよい。
- 最近、身近でよく聞くが、町内会を抜ける方が増えてきている。そういった中で、どのようにしてボランティアを増やしていくのが課題であり、防犯推進委員にならないとボランティアに参加できないということになれば、荷が重いので、「こういうイベントがあるから手伝ってくれる人を募集する。」というような形で、その地域の交番にチラシが貼るなど、軽い形で参加できるようにすることが重要である。
- 少し前まで鍵—1 グランプリという、高校生が主体となり、各学校で自転車の鍵かけ率を競うイベントがあったが、高校生がすごく盛り上がって、高い実施率であったので、例えば高校生をロックモンキーズの下部組織みたいな形にするのはどうか。
- ボランティアの裾野を広げ、人数を増やしていくことは、防犯に繋がる。今、高校生サイバー防犯ボランティアがいて、小学校への授業の支援活動を行っている。この高校生ボランティアは特殊詐欺の勉強をされていて、実際にコンビニのバイトで特殊詐欺被害を未然に防止した事例があるが、この活動に参加し、特殊詐欺について勉強していなければ防げなかった。このような形でボランティアに関わる人が増えると、犯罪を止められる人、犯罪を知っている人が増えるという側面も出てくるので、次世代を育成していくことは重要である。
- 就職してからも、どっぷりではなく、部分、部分で関われるボランティア活動があるなら、学生は関わりたいと思ってくれるのではないか。部分、部分で関われるような制度を作れたら、活動する人の年齢が下がり、裾野が広がると思う。
- ボランティア活動には、楽しそうだなって思うものもあれば、活動によってはそうでないものもある。ボランティア活動に参加してもらうには、楽しめる要素が必要であると思う。
- ボランティアを増やすためには、活動に参加してみようかと思わせるような要素が必要である。

③ 地域コミュニティの課題について

- 子供・若者にとって楽しい防犯活動を作っていく必要がある。鍵一1 グランプリを今までやってきたが、一定の成果が出ているこのような取組をさらに進化させる活動はとても重要である。子供たちが大人になって、みんなで協力するなど、自分たちが一步踏み出すことが大事であることに気づいてくれたら、地域コミュニティの再生にも繋がっていくと思う。また、高校では探求学習が必須となり、地域社会に様々な形で出て行っているの、地元の警察と連携して、防犯に関わる探求学習に取り組むと、もっと波及効果は大きくなるのではないかな。
- 地域コミュニティの再生の問題や公民館活動について、防犯から切り込んでいくというのは難しい面がある。警察が持っている大きな資源としては、交番があり、府民協働防犯ステーションを継続して取り組んでいるので、この取組を地域の中で、さらに発展させることが、非常に重要である。

④ 子供の安全対策について

- こども 110 番のいえが町の中にたくさんあるということは、抑止という面で重要である。抑止の力を府民参加で作っていくツールとして、こども 110 番のいえは非常に有効だと思うので、しっかりと現状を見極めながら、戦略的に継続して取り組んでいただきたい。最近おしゃれなお店や家も増えてきたので、プレートを貼りたいと思えるようなデザインにそろそろ見直してみてもどうか。
- こども 110 番のいえの登録が少ないところを増やしていけたらよい。仮に企業や商店が少ないという分析結果であれば、商店を中心に増やしていくのも一つの見守りの方法であるし、家庭が少ないのであれば、家庭を中心に増やしていけばよいと思う。
- 学校の安全については、学校ごとにマニュアルを作り、様々な訓練がなされているが、京都府内の学校ごとにマニュアルが機能しているかどうか検討を促すような仕組みが必要ではないだろうか。府内の小学校、中学校の安全は保たれているのか、を教育委員会等が検証していく必要がある。

⑤ ネット関連の対策について

- サイバー犯罪に関しては、都市部も地方も関係ないため、地方自治体も対策を進めていかないといけない。
- ネット安心アドバイザーの活動に関して言うと、一般市民公募型の公開講座という形でネットトラブル対策講座を行っていたが、このコロナ禍の3年間で講座が一切中止になった。ついこの間から、ようやく誰でも参加できる形で再開したが、まだ参加する人はかなり少ないため、多くの人に活動を知ってもらいたい。

- 高齢者もこのコロナ禍をきっかけに、孫とのコミュニケーションを取るためにスマートフォンを持ち始めた人が多いので、買い替えるときなどに、キャリアでもう少し広報してもらえたらよいと思う。18歳未満の者に対するフィルタリングについての説明が少しおざなりになっている部分があり、ショップでフィルタリングの中身を説明する前でも、親が拒否するにつけない場合が多く、その結果、子どもが性犯罪に巻き込まれるケースも出てきているので、キャリアで何か対応できる部分もあると思う。
- 昨年度ぐらいから消費生活相談員や民生委員など地域に関わる方対象に、ネットに関係する講演をしているが、子供の被害実態を知ってもらおうと同時に、高齢者の被害実態やその被害手口と防止の方法をお話しさせてもらった。そういった機会を今後増やしていくことが必要だと思っている。

⑥ 子どもの情報モラル教育について

- 中学生の8割から9割はスマホを持っていると思う。GIGA端末の使用に限らず、情報モラル教育については、行っていくべきである。
- AEDの講習は、医療現場だけではなく、PTAや大学などいろんな場所で行われている。情報リテラシー教育についても、様々な分野のリーダー的な役割を担う方々には知っていただきたい。例えば、青少年や少年補導に関する団体の人たちに知っていただき、子供達と交流するときに、その知識を伝えていただく。高齢者の場合、民生児童委員や地域包括ケアセンターの高齢者のサポートをされている方などに基礎知識を持っていただくことが必要かと思われる。
- GIGA端末を使って、何かを検索するなどの授業をする機会があると思うが、その中で本当に正しい情報なのかどうかという判断ができていないので、情報モラル教育で正しいものを見極め、ファクトチェックをしていくという部分の教育も今後していかなければいけない。
- 子供らがGIGA端末を持ち始めて、早いところで3～4年経つが、学校に聞くと、授業中に端末のカメラ機能を使って撮影する子がいて、それをさらにクラスでばらまくというトラブルもあるので、機器の使い方や、どのようなことをしたら犯罪になるのか、ということもしっかりと教えていかなければいけない。

⑦ 特殊詐欺対策について

- NTTが、特殊詐欺対策として、高齢者の方を対象に無料でナンバーディスプレイを表示する取組をしていると思うので、そういった啓発は自治体として、行う必要がある。
- テレビショッピングや普通のショッピングで購入した場合のトラブルに関しては長けているが、ネット詐欺被害の手口に関しては長けていない相談員もおられるので、相談員から広げていき、その後、地域に広めてもらうのが、一つの手だと思う。その相談を受ける人から次に直接のユーザーに段階的に広めていく形で、まず被害実態と手口を知ってもらうことが大事である。